日時 令和4年8月2日(火) 16時00分から17時30分
場所 加古川中央市民病院 3階 会議室
出席者 委員 5名
加古川市民病院機構 13名
事務局 5名

- 会議次第
1. 開会
 2. 委員長及び副委員長の選任
 3. あいさつ
 4. 諮問書の提出
 5. 議題
 - (1) 令和4年度の評価委員会開催予定について
 - (2) 令和3年度運営状況の概要について
 - (3) 令和3年度業務実績に関する評価について
 - (4) その他
 6. 閉会

【配付資料】

資料1：令和4年度評価委員会開催予定

資料2：令和3年度決算概要

資料3：令和3年度財務諸表等

- (1) 財務諸表及び附属明細書
- (2) 決算報告書
- (3) 事業報告書
- (4) 会計監査人監査報告書
- (5) 監事監査報告書

資料4：令和3年度業務実績概要

資料5：令和3年度業務実績報告書

1. 開会	開会の宣言 <健康医療部長あいさつ> <委員より自己紹介>
2. 委員長及び副委員長の選任	委員の互選により、委員長及び副委員長が選任された。
3. あいさつ	<委員長あいさつ>
4. 諮問書の提出	事務局から委員長へ諮問書を提出した。
5. 議題	(1) 令和4年度の評価委員会開催予定について 令和4年度の評価委員会の開催予定について、資料1に基づき事務局から説明を行い、委員の了承を得た。
	(2) 令和3年度運営状況の概要について 令和3年度の運営状況及び決算概要について、資料2・3に基づき、加古川市民病院機構（以下、「機構」という。）より説明があった。
	(機構) 2020年度から新型コロナの影響を受け始めたが、当初はどんなウイルスか不明のため、4、5月は診療を制限し、検査の機会を準備する等に時間を費やした。しかし、2021年になると新型コロナについて情報がわかってきたので、加古川中央市民病院の大きな役割である地域の救急をしっかりと診ることと、あわせて今まで行ってきた通常の診療を継続することが大事であると考えている。救急については、県立加古川医療センターが県の新型コロナ拠点病院として重症患者を受け入れており、その他の救急を止めて新型コロナに特化していたので、我々がそこを一定程度カバーしたいという思いもあった。 2021年度の実績については、こうした地域の診療を守るための通常診療と新型コロナの診療の両方をしっかりとやることが実際にできた結果だと思う。医業収支比率だけを見ると2019年度が105.5%で、2020年度は100.2%であったが、2021年度は104.6%となり、2019年度の水準に戻りつつある。医療として我々がやるべきことをしっかりとしてきた結果、今までの状態に戻っており、国等からのコロナに関連する様々な補助金があるものの、それだけで収支がプラスになっているわけではなく、診療をしっかりとやれた結果だと思う。
	(委員) 今年度は厳しいと思っていたが損益計算書を見ると非常に良い数字であった。固定資産への大きな投資があったが、過去の貯金を消化する形ではなく、大部分を今年度の収益でカバーできており健全である。 (委員) 収益増加の要因がコロナの補助金による臨時的な措置によるものが大きいということだが、コロナ対策を適切に行い、市民・政策のために対応された結果であると思う。 (委員) 最近では自治体立優良病院表彰を受賞されておったが、去年の経営が評価されたのか。

	<p>(機構) 直近5年間の経営状況と、この1、2年でコロナにしっかりと対応したことが受賞の理由であると考えている。</p> <p>(委員) 新型コロナに罹患した透析患者や妊婦等の対応を行い、地域の基幹病院としての役割を果たされた。手術件数等が増えている点からも、コロナ禍でも通常の治療を継続していることがわかる。どのような手術が増えたのか。</p> <p>(機構) 他の医療機関では、コロナでなくても熱がある患者は診れない場合があり、その影響を受けて救急の件数や手術の症例が全体的に増えている。特に外科の手術件数が増えている。また、24、25例と少数だが、コロナが陽性者の手術もあった。</p>
	<p>(3) 令和3年度業務実績に関する評価について</p> <p>令和3年度の業務実績の概要及び法人の自己評価のポイントについて、資料4・5に基づき機構より説明があった。</p> <p>(機構) 病院統合前の東西市民病院では、がんについて個々の診療科が対応していたものの、病院全体として注力できていなかったと思う。この5年間で各診療科だけでなく、病院全体がチーム医療として患者への説明やサポートなどを行い充実してきた。2022年に国の「地域がん診療連携拠点病院」の高度型として認定されたことは、病院としての総合的な取組の結果であり良かったと思う。</p> <p>(委員) ヒヤリハットの報告件数が増えているが、医師からの報告割合は増えているのか。</p> <p>(機構) 医師の報告も増えているし、研修医からの報告もひと月に2件ほど報告がある。研修医に対しては、指導医や看護師からのサポートの体制ができている。医師も以前に比べて報告する状況になってきた。</p> <p>(委員) 2024年度からの医師の働き方改革が問題になっているが、医師の労働時間について、時間外が月に80時間や100時間を超える人はいるのか。</p> <p>(機構) 病院統合前はおそらく100時間を越えることもあったが、現在は100時間を超えることはないと思う。時間外の考え方については、自己研鑽との区別が難しいが、主任科部長から研修医まで集まる場で話し合うなどし、それぞれの立場が納得するような区別の仕方を考え、基準を明確化するなどの取組を行っている。</p>

(委員)

現在ダヴィンチを導入しているが、国産の手術支援ロボットを研究で使うとか導入するなどの計画はあるか。

(機構)

現在病院の増築計画があるが、今後ロボット手術の数が増えるようだと1台では難しいケースが出てくると思うので、ダヴィンチなどの新たなロボットを検討することになると思う。ただし、現時点では国産ロボットを研究的に導入する等の検討はできていない。増築棟ができたときにハイブリッドの手術室を入れることは考えているが、まだ検討段階である。

(委員)

決算数値は毎年とても素晴らしいのだが、機構としては特に何が要因だと考えておられるのか。

(機構)

バランススコアカードに業務改善、顧客、人材育成、財務の4つの視点で各部門が年度ごとの目標を立て、各個人がその中でどういうところに力を入れていくかを考え、行動に移す努力をしてくれていると思う。目標があまりに高すぎると問題が起こってしまうが、年に3回行う部門長とのヒアリングで、各診療科の状況に応じて目標設定を考え、他の部門でバックアップができないか調整を行っている。そういった流れがうまく機能していると思う。

(委員)

現時点で評価が3のものを4にし、5の評価を増やす努力を継続していただきたい。事情によって目標を下げないといけないこともあると思うが、意識的に目標を高く設定して、モチベーションが下がらないようにしていただきたい。

(委員)

高度、専門医療で大きな役割を担っていると思う。医療を担うのは人だと思うので、色々な状況の職員がいる中で働きやすい環境づくりが大切だと感じている。数値に現れない部分もあるが、地域医療への貢献やコロナワクチン接種を含めた市との連携を感じた。

(委員)

ヒヤリハット報告について、年度計画では事象の把握を行い再発防止に取り組むことが挙げられている。再発防止に関しては、オカレンス報告制度やリスクマネージャー部会の開催について報告いただいているが、オカレンス報告制度で構築された具体的な仕組みを教えてください。

また、ハラスメントの通報窓口・相談窓口を通じて実態を把握した後にどういった形で対処をされているのか教えてください。

(機構)

臨床倫理委員会を開催し、オカレンス報告について発信し注意を促している。ハラスメントについては個々に対応している。それぞれの事象に対応している中で、全職員に対するフィードバックまでは至っていない。

	(4) その他
	特になし。
6. 閉会	<副委員長あいさつ>